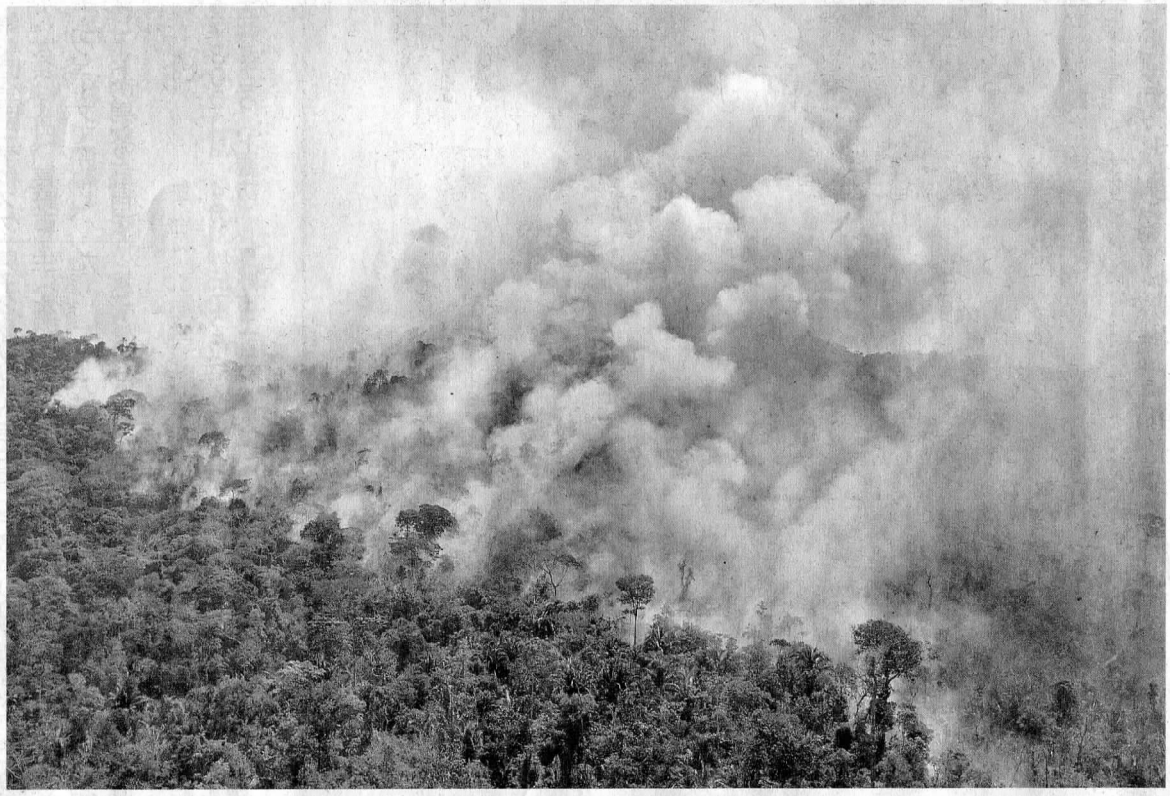
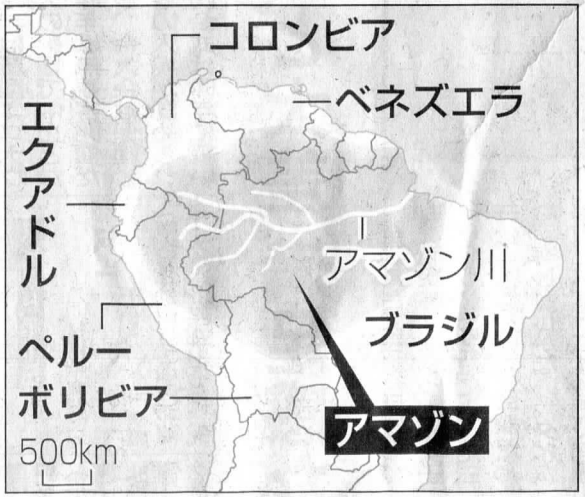
アマゾン雨林

3分の1が状態悪化

【ワシントンAFP時事】南米の広大なアマゾン熱帯雨林のうち、3分の1以上が人間の活動や干ばつにより状態が悪化している可能性があることが分かった。ブラジルのカンピーナス州立大などの研究者グループが米科学誌サイエンスに発表した。



アマゾンの熱帯雨林火災＝2020年8月、ブラジル北部パラ州（AFP時事）



ブラジル研究者ら科学誌に発表

研究者らは2001～18年にかけての衛星画像などのデータを分析。9カ国にまたがるアマゾン熱帯雨林へのダメージが以前に知られていたよりもはるかに深刻になっていると指摘し、生態系保護のため行動を起こす必要性を訴えた。

研究では、01～18年に火災や森林伐採などにより、熱帯雨林全体の少なくとも5・5％（約36万平方キロ）について状態が悪化してきたと説明。これに干ばつの影響を加味すると、全体の38％（約250万平方キロ）まで拡大すると試算している。

研究者らは「非常に深刻な干ばつがアマゾンで頻発してきている」と強調。人間に起因する気候変動などが「木々が死滅する確率や火災発生率、大気への炭素排出量」に影響を与えているとした。さらに、干ばつが多い年は森林火災が激化するとし、将来的に「さらに広範囲の巨大火災」の危険性があるとも警告した。

ブラジルのルラ大統領は30年までにアマゾンの森林消失を食い止める目標を掲げている。